

事業計画名

ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成

名古屋商科大学の取り組み内容

本事業は、「ケースメソッド」と「フィールドメソッド」を教育の両輪として、インテンシブ且つ相乗的に組み合わせ実践します。実務経験の少ない学部学生に対して「ケースメソッド」を展開する際に、「フィールドメソッド」を相乗的に組み合わせることで、「ケースメソッド」の効果をより高めることが可能です。インテンシブ教育で密度の濃い学びを実現することにより、学生が集中して学び、学修意欲を保ち、学びがより定着することが期待されています。「フィールドメソッド」を本格的に教育プログラムに導入し、商学部としての特色を明確に打ち出し、新しい学びを実現し、産業界や地域社会の要請に対応するリーダーを養成します。

ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成

▼取組概要

本事業では、「ケースメソッド」と「フィールドメソッド」をインテンシブ且つ相乗的に組み合わせ実践し、産業界や地域社会の要請に対応するリーダーを養成する。インテンシブ教育で密度の濃い学びを実現することにより、学生が集中して学び、学修意欲を保ち、学びがより定着することが期待される。

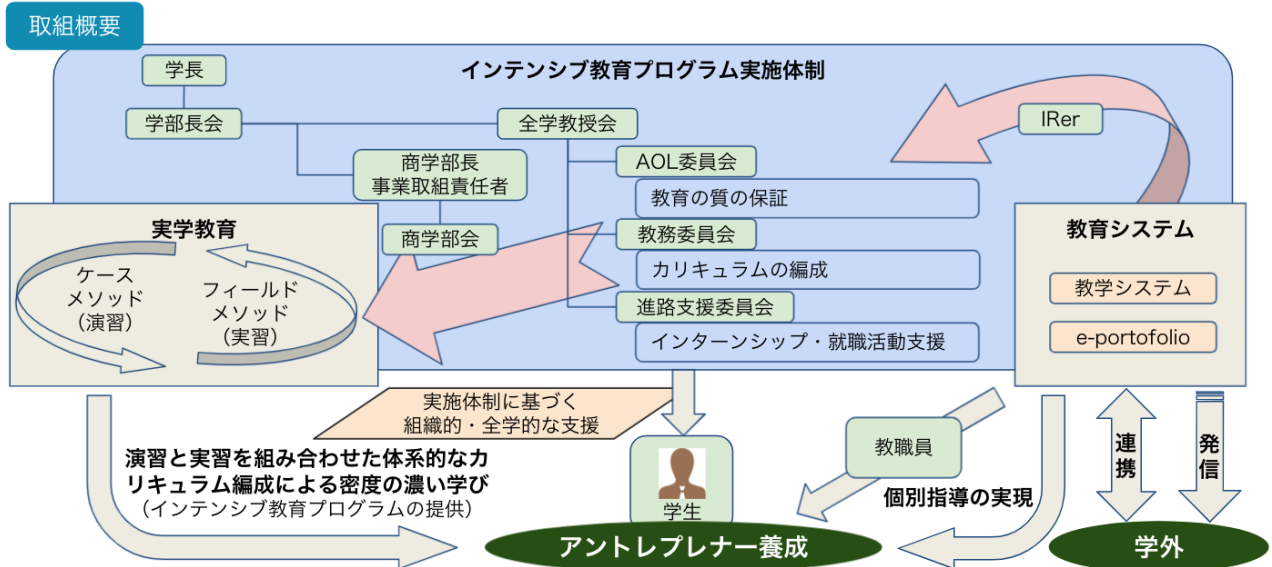
▼事業を行う背景・目的

商学部としての特色を打ち出し、本学が取り組んできたケースメソッドを補完する目的でフィールドメソッドを導入し、自己点検評価の分析によって明らかとなった「問題解決力の向上」という課題を克服し、産業界や地域社会に貢献するリーダーを養成する。

▼取り組みの計画

左記の目的を達成するため、以下の取り組みを行う。

- + 産業界や地域社会と連携した実践的教育プログラムを展開
 - > インターンシップを授業の中に組み込んだ「フィールド実践」を核としたインテンシブ教育プログラム
 - > ビジネスプランコンテスト出場を目指した「事業構想実践」を核としたインテンシブ教育プログラム



1. ケースメソッド

名古屋商科大学では、ビジネスケースを教材とした「ケースメソッド」を導入しています。ケースメソッドでは、「ケースの主人公の立場に立って自分ならどうするか」を考え、議論を繰り返します。グループ討議、全体討議を行う中で、他の学生の追体験談を聞きながら、自分の用意した意思決定を磨き上げます。ケースメソッドは、下図の一番右の「演習」に該当します。演習とは「教材（ケース）を通じて対象（経営問題）を主体的に擬似体験する方法」です。

2.フィールドメソッド

フィールドメソッドは、下の図の真ん中の「実習」に該当します。実習とは「学習者が対象を直接体験する方法」です。

ケースメソッドとフィールドメソッドの最も大きな違いは、フィールドメソッドは「実行した結果のフィードバックを得られる」点です。逆にいえば、ケースメソッドでは決断して実行した結果に対するフィードバックを得ることが難しいということです。

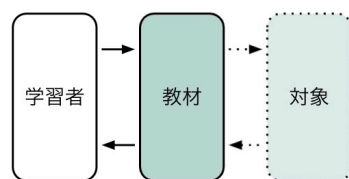
ケースメソッドが「議論して学ぶ」のに対して、フィールドメソッドは「体験して学ぶ」ものであり、両者は相互補完的です。ケースで学んだことをフィールドで実践し、何がうまくいくのかわからないのか、気づきを得られます。一方で、フィールドで経験し、振り返りを行うことで、ケースメソッドでの学び方を改めることが可能になります。

Teaching Method

様々な教授法

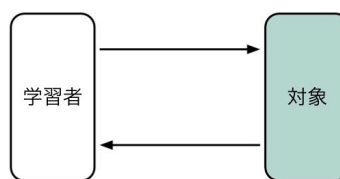
講義

指導者が解説や発問を通して学修対象を伝える方法



実習

学習者が特定の学修対象を直接体験する方法



演習《討議》

教材を通じて学修対象を主体的に疑似体験する方法

